

特別養護老人ホームに於けるレクリエーションの現状

—特別養護老人ホーム，高齢者レクリエーション，福祉レクリエーション，
レクリエーション支援，レクリエーション活動—

山本清洋・黒木邦弘*・高橋信行**・山本良江***

(1995年10月16日 受理)

Today's situations of recreation in special nursing home for the aged

— Special nursing home for aged, recreation for aged, welfare recreation,
recreational support, recreation activity. —

KIYOHURO Yamamoto, KUNIHIRO Kuroki,
NOBUYUKI Takahashi and YOSHIE Yamamoto

I. はじめに

わが国の特別養護老人ホームをはじめとする老人ホームでの高齢者の「介護」は，専門的かつ一般的な技術であり，社会福祉施設において実施されているサービスの主要なものである。

しかし，住居は日常的な業務の中心は「介護」である。施設内処遇とは，全般的に食事，入浴，排泄に関する基本的な介護技術と，生活指導といわれる集団生活への適応を基本とする集団的，個別的「指導」であるとのべている。^{注1)}

「施設」というある意味では閉鎖的な空間で展開している「介護」について島津らは^{注2)}，個々の利用者の処遇を考えるにあたり，まず集団生活への適応を考えなければならない。レクリエーション活動は，そういった集団生活への適応を，意図的かつ計画的に実施することができ，個々の利用者の生活意欲の向上に結びつける要素をもっている。施設におけるレクリエーション活動は，単に食事，入浴，排泄などの基本的な介護技術の合間をぬって行われるものではなく，その基本となる利用者との関係，利用者との信頼関係の確立に関連しており，それは「生活権」^{注3)}の獲得という社会的な自立生活の保障といった個々の生活文化の保障につながっていくと述べている。1981年の国際障害者行動計画の理念には一般の社会の営みのなかにふつうに参加するための機会を拡大

*鹿児島医療専門学校

**鹿児島経済大学

***鹿児島，加世田医療専門学校

させ、障害の有無にかかわらず、人間が平等に権利と義務を分に応じて担って生きようとする対等の生活原理が謳われている。以上のような考えこそ社会福祉において利用者の処遇を考える根本思想としてのノーマライゼーションの理念につながっていく。^{注4)}

先行研究のなかに、医療・保健・福祉・社会教育分野毎での福祉施設におけるレクリエーション活動を述べたものはあるが、福祉分野、とりわけ老人福祉において特別養護老人ホームにおけるレクリエーション活動の実態を研究したものはない。^{注5)}

施設内での処遇改善が叫ばれているなか、特別養護老人ホームなどの入所型施設におけるレクリエーション活動の実態は明らかにされていない。このため、われわれは特別養護老人ホームのレクリエーション活動の実態に関して調査、分析を試みた。本研究は、鹿児島県内の特別養護老人ホームを対象に平成7年8月から9月に調査を行ったものの報告である。

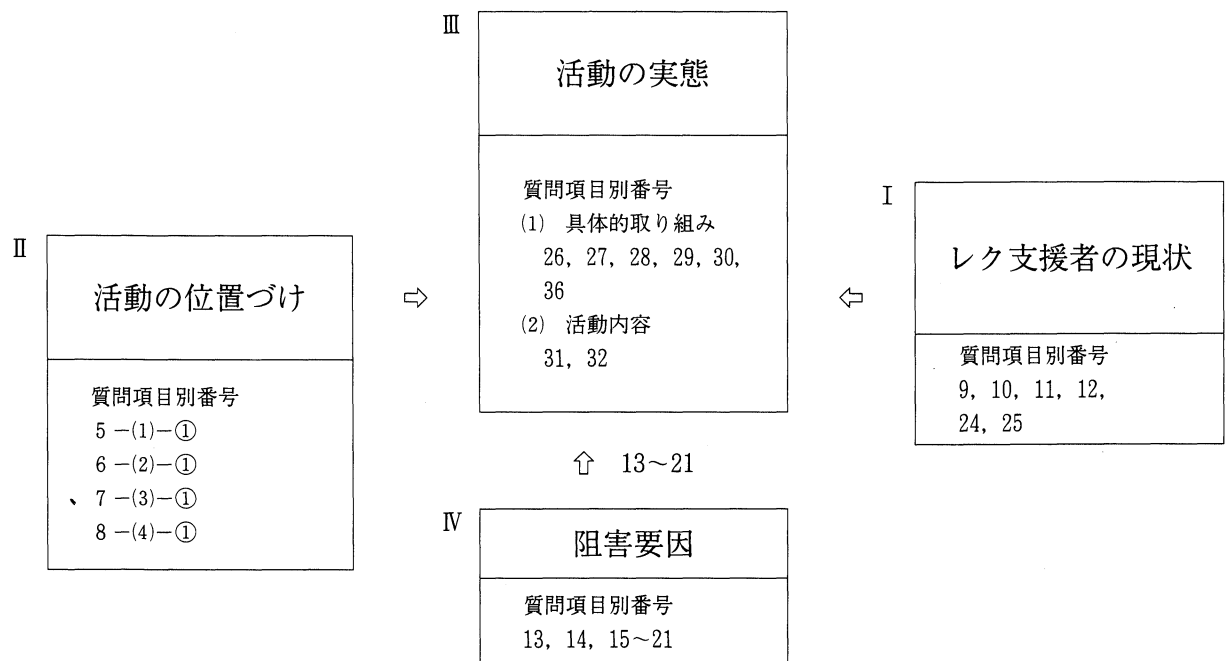
II. 分析枠組み

1) 分析枠組み

本調査では、特別養護老人ホームにおけるレクリエーション活動やそれを取り巻く諸条件を明らかにしようとした。

従って、本調査の内容は、大別すればI. レク支援者の現状、II. 施設でのレクリエーション活動の位置づけ、III. 活動の実態、IV. レクリエーション活動に影響を与える阻害要因群の結果として生じるレクリエーション活動の4つに分かれる。

具体的な質問内容は、本調査が対象としたレクリエーション活動の4つの内容に対応させた36の項目から成り立っている。図1は分析枠組みを図式化し、質問項目を対応させたものである。



2) 調査の目的

先に述べたように今回の研究は、(1)施設におけるレクリエーション活動支援者の現状、(2)施設におけるレクリエーション活動の位置付け、(3)施設におけるレクリエーション活動の実態、(4)施設におけるレクリエーション活動の阻害要因についてそれぞれ調査することにより、施設におけるレクリエーション活動の現状を把握し、課題を見出すことを目的とする。

Ⅲ. 調査結果とその考察

1. 対象者の基本的事項とレクリエーション活動支援者の現状

(1) 対象表への特性

鹿児島県内の特別養護老人ホーム（以下：特老ホーム）全98施設を対象とした。平成7年8月から9月にかけて、質問紙法（郵送）による調査をおこなった。98施設中52施設（回収率53%）から回答を得た。

(2) 対象者の職名

本調査の回答者は表1に示されているように生活指導員がほとんどである。

この結果はその施設の日課に沿った処遇を、直接遂行する寮母などと異なり、その職責が、生活指導の計画立案と実施の責任、対外的折衝、グループワークなど生活全般に関わっているところに起因するのではなかろうか。

表1 対象者の職名

	(%)
生活指導員	76.9
寮母（寮父）	13.6
看護婦	1.9
介護福祉士	1.9
施設長	1.9
介助員	1.9
事務員	1.9

N=52

表2 対象者の勤続年数

	(%)
10年以上	36.6
5～10年未満	19.2
5年未満	44.2

N=52

表3 対象者の性別

	(%)
男	75.0
女	25.0

N=52

本調査の対象者の特老ホームにおける勤続年数は、10年以上が36.6% 5年以上～10年未満が19.2% 5年未満が44.2%となっており、対象者の55.7%が5年以上の勤務経験があり、そのなかには10年以上のベテランも含まれている。男女比については、男性75.0%、女性25.0%である。

表4 レク活動を企画・実践している職種 (%)

生活指導員	34.8
寮母(寮父)	34.8
介護福祉士	7.6
看護婦(士)	5.4
その他	6.4

N=92

表5 レク活動支援者に関するレク関係資格の有無 (%)

もっている	40.6
もっていない	59.6

N=52

表6 取得している資格名

福祉レクリエーション・ワーカー	4.5
レクリエーション・コーディネーター	9.0
レクリエーション・インストラクター	59.2
その他	22.8
不明	4.5

N=52

表7 施設内でのレク活動に関する勉強会の実施 (%)

毎日	0.0
週1~2回	1.9
月1~2回	5.8
特に定めていないが必要な時に随時	53.8
ほとんどしていない	38.5

N=52

表8 福祉分野におけるレク活動の必要性 (%)

かなり重要視している	48.1
まあ重要視している	38.4
ふつう	9.6
あまり重要視していない	0.0
まったく重要視していない	0.0

N=52

施設においてレク活動を企画・実践している職種(表4)は、先に述べたように生活全般について携わっている生活指導員と利用者に直接的に介護などの支援をする寮母(寮父)が、ともに34.8%となっている。また、レク活動に何等かのかたちで関わりをもつ職員のうち、40.6%が公認の資格^{注6)}を取得している(表5)。取得している資格としては、地域でのレク活動の普及に努めるレクリエーション・インストラクターが最も多く、全体の59.2%を占めている(表6)。

施設内におけるレク活動に関する勉強会の実施(表7)については、「特に定めていないが、必要時随時」が53.8%、「ほとんどしていない」が38.5%である。レク活動に関して86.5%がその必要性(表8)を感じていることや資格取得者の割合が高いことを考えると、現実には各施設の実態に沿ったレク活動の必要性を感じつつも、計画的なレク活動が展開していないことが推測される。

表9 レク活動に関する施設外研修への参加 (%)

積極的に参加している	9.6
ときどき参加している	65.4
ふつう	11.5
ほとんど参加していない	9.6
まったく参加していない	3.9

N=52

表10 日常のレク活動を実践する職員数

当日勤務している職員全員	13.5
当日のレクリエーション担当者4~5名	32.7
当日のレクリエーション担当者1~3名	44.2
当日のレクリエーション担当者のみ	9.6

N=52

また、レク活動に関する施設外への研修参加(表9)について「ときどき参加している」が65.4%となっており、レク活動の必要性はわかっているが、施設内において勉強会ができる現状にないことが推測される。日常のレク活動を実践している職員の平均人数(表10)は「当日のレク活動担当者を含んだ1~3名」が44.2%となっており、施設内においてレク活動に携わることのできる人数の少なさが伺える。

2. 特老ホームにおけるレク活動の位置付け

表11 特老ホームにおけるレク活動状況

N=52, (%)

	行っている	行っていない	不明
行事としてのレク活動	88.5	9.6	1.9
クラブ活動としてのレク活動	65.3	32.6	1.9
余暇活動としてのレク活動	76.9	21.2	1.9
リハビリテーションとしてのレク活動	84.6	13.5	1.9

表12 レクリエーション活動の評価 (%)

	非常に充実している	まあ充実している	ふつう	あまり充実していない	充実していない
行事としてのレク活動	4.3	42.6	44.7	8.4	0.0
クラブ活動としてのレク活動	0.0	42.9	45.7	11.4	0.0
余暇活動としてのレク活動	5.0	25.0	50.0	20.0	0.0
リハビリとしてのレク活動	8.9	33.3	48.9	6.7	2.2

※サンプル注 行事=47, クラブ活動=35, 余暇活動=40, リハビリ=45

特老ホームにおけるレク活動状況(表11)は、①行事として88.5% ②クラブ活動として65.3% ③余暇活動として76.9% ④リハビリテーション(以下:リハビリ)として84.6%とそれぞれ高い割合で実施されている。その充実度(表12)についてみると、活動そのものは幅広く実施されているが、内容の充実度はいずれも50%を割り込んでいる。しかし、それらの中で①行事としてのレク活動の活動状況の充実度がやや高いのは、地域に根づいた施設運営が叫ばれはじめており、歳時など施設における伝統的な年間行事(表13の1)を地域イベントと一体となって実施している傾向によるものだと考えられる。

表13-1 特老ホームにおける年間行事(自由回答の結果)

行事 / 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	毎月
誕生会	4	2	3	2	3	2	3	2	2	3	2	2	10
歳時	19	25	23	22	10	2	27	24	22	0	1	49	2
プログラム	遊戯およびゲーム	4	2	1	2	3	2	1	1	3	2	0	2
	スポーツ	0	1	1	1	9	4	1	2	7	18	5	2
	野外活動および自然探求	4	2	5	12	16	10	15	9	12	6	14	3
	舞踊(ダンス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	演劇的活動	1	1	1	1	0	1	0	1	2	6	0	1
	音楽的活動	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
	美術工作・手芸工作	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
	自己啓発活動	0	0	0	6	4	5	1	1	6	4	3	0
	社交的活動	2	4	5	4	0	5	2	3	1	3	7	3
その他	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	

※注 具体的な自由回答の数字は、度数を示している。

表13-2 特老ホームにおける年間行事
(具体的な自由回答)

1月	誕生会 4 ゲーム 初詣 3	歩きましょう 新年会 5 書き初め	鏡開き 2 大相撲優勝力士予想大会 バイキング	新年会 4 福笑い 2 茶話会	スゴク大会 2 交流会 映写会	車椅子歩行競争 ドライブ 2 年賀ハガキ抽選会	凧揚げ大会
2月	誕生会 1 ドライブ 映写会	歩きましょう バレンタイン 保育園児交流会	節分 22 花見 梅見物	カラオケ大会 梅見物	宝釣り レクリエーション大会	茶会 2 交流会	ボーリング大会 模擬店
3月	誕生会 3 昼食会 交流会	歩きましょう 大相撲優勝力士予想大会 節分	雑祭り 16 梅見物 ボーリング大会	旅行 2 ホワイトデー カラオケ大会	花見 3 遠足 映写会	ドライブ 2 みかん狩り バイキング	ゲーム 彼岸法要 墓参り
4月	誕生会 2 家庭訪問 交流会 2	歩きましょう バイキング 玉入れ大会	買い物デー 3 茶話会 散歩 2	ドライブ 3 映写会 ゲートボール大会	花見 21 園外行楽 遠足 4	故郷巡り 輪投げ大会 いちご狩り	運動会 文化祭 家族会
5月	誕生会 3 野菜・花栽培 家庭訪問 蛍見物	歩きましょう 園外外出 2 ゲーム 2 父母の日 2	遠足 5 節句 4 ピクニック 3	レクリエーション大会 ボーリング大会 大相撲優勝力士予想大会	運動会 8 花見バイキング 散歩 2	ドライブ 3 母の日 2 講演会	子供の日 故郷巡り 家族会
6月	誕生会 2 交流会 散歩 映写会	歩きましょう ゲーム 大相撲優勝力士予想大会	ドライブ 5 昼食会 ホーム喫茶	父の日 2 茶会 2 園外外出 2	故郷巡り 2 買い物 3 レクリエーション大会	家庭訪問 野菜・花栽培 バイキング	運動会 3 風船バレー 遠足
7月	誕生会 3 家庭訪問 陶芸	歩きましょう 玉入れ バイキング	七夕 15 納涼大会 3 市内小中高でボランティア受け入れ 六月燈	夏祭り 7 ボーリング大会	ドライブ 3 スイカ割大会	野外活動 遠足 2	ソーメン流し 7 食事会
8月	誕生会 2 納涼大会 3 風船バレー	歩きましょう 七夕 3 バイキング	夏祭り 14 ソーメン流し 3 茶話会	ドライブ 3 玉入れ大会 映写会	野外活動 納涼大会 4	家庭訪問 交流会	運動会 園外外出
9月	誕生会 2 十五夜 紙相撲 大相撲優勝力士予想大会 ピクニック	歩きましょう 故郷巡り 2 散歩 バイキング	観月会 3 家庭訪問 十五夜 3 地区老人スポーツ大会に参加	運動会 5 敬老の日18 芸能大会 2 器楽	家族とのふれあい活動 買い物 家族会 集落運動会	ドライブ 5 茶会 彼岸法要	野外活動 遠足 2 陶芸
10月	誕生会 3 ゲートボール大会 リハビリ大会 ゲーム大会	歩きましょう ショッピング 散歩	レクリエーション大会 2 カラオケ大会 ボーリング大会	故郷巡り 芸能大会 5 家族会	家庭訪問 踊り バイキング	運動会 16 一日遠足 茶話会	ドライブ 交流会 2 映写会
11月	誕生会 2 遠足 5 散歩 2	歩きましょう 輪投げ大会 大相撲優勝力士大会	カラオケ大会 パン食い競争 バイキング	家庭訪問 昼食会 地区保育園とのみかん狩り	運動会 5 豊穰祭 文化祭 4	ドライブ 3 買い物 2 交流会	菊観会 バーベキュー大会 文化会
12月	誕生会 2 ドライブ 2	歩きましょう 風船バレー	クリスマス会 25 交流会	餅つき 12 バイキング	忘年会 12 映写会	ボーリング 地区保育園との餅つき大会	茶話会 2
毎月定期行事							
レクリハ、音楽療法、作業療法、詩吟、書道、ビデオ鑑賞、ボールゲーム、 音楽(打楽器演奏、カラオケ) 3 踊り、体操、誕生会 10、茶会、園外外出、 買い物、華道、書道、図工、陶芸、園芸、歌謡 2、調理、月例法要 お楽しみ会、法話会							

※注 具体的な自由回答の数字は、度数を示している。

表14 行事参加についての家族への呼び掛け (%)

積極的に呼び掛けている	19.2
ときどき呼び掛けている	13.5
ふつう	13.5
あまり呼び掛けていない	23.1
呼び掛けていない	30.7

N=52

表15 行事参加に関するボランティアや実習生への参加の呼び掛け

積極的に呼び掛けている	19.2
ときどき呼び掛けている	19.2
ふつう	17.4
あまり呼び掛けていない	26.8
呼び掛けていない	17.4

N=52, (%)

また、施設行事の実施についての家族への呼び掛け(表14)をみると、「呼び掛けている」が32.7%、「呼び掛けていない」が53.8%を示し、施設からの家族への呼び掛けはあまり積極的でないことが分かる。また、医療・福祉系専門職の養成機関からの実習生やボランティアの行事参加に配慮(表15)をみると、「呼び掛けている」が38.4%、「呼び掛けていない」が34.2%を示し、ほぼ同じ傾向であることがわかる。

3. レクリエーション活動の実態

(1) 具体的な取り組み

表16 実践しているレク・プログラムの分類(複数回答)^{注7)} (%)

遊戯およびゲーム	31.3
スポーツ	3.3
野外活動および自然探究	10.0
舞踊(ダンス)	4.0
演劇的活動	0.7
音楽的活動	32.7
美術工芸・手芸工作	16.0
自己啓発活動	0.0
社交的活動	1.3
その他	0.7

N=150

表17 利用者が希望しているレクプログラムの分類(複数回答)^{注8)}

遊戯及びゲーム	24.0
スポーツ	16.0
野外活動および自然探究	12.8
舞踊(ダンス)	4.8
演劇的活動	0.8
音楽的活動	24.0
美術工芸・手芸工作	6.4
自己啓発活動	1.6
社交的活動	2.4
その他	5.6
誕生会、歳時に伴う行事	2.4

N=125

施設において実践されているレク・プログラム^{注7)}は、音楽的活動の32.7%、遊戯およびゲームの31.3%、美術工芸・手芸工作16.0%、そして野外活動および自然探究10.0%が主なものである。次に、利用者が希望しているレク・プログラム(表17)^{注8)}をみると、音楽的活動が24.0%、遊戯およびゲームが24.0%、スポーツが16.0%となっている。実践しているレク・プログラム(表16)と利用者が希望しているレク・プログラム(表17)を比較してみると、音楽的活動、遊戯およびゲームそして野外活動および自然探究の3つのプログラムについては実践しているレク活動と利用者の希望するレク・プログラムはほぼ同じ割合である。しかし、スポーツではレク活動としての実践は3.3%であるのに対して、利用者の希望としては16.0%を示している。

表18 日常のレク活動の形態 N=52, (%)

利用者一齐に行っている	76.9
幾つかの小グループに分かれて行う	9.7
利用者を時間に分けて行っている	1.9
小グループ毎, 自由に選択して行っている	7.7
その他	3.8

表19 日常のレク活動のプログラムに
利用者の声を反映させていますか

かなり反映させている	11.5
反映させている	32.7
ふつう	38.5
あまり反映させていない	15.4
反映させていない	0.0
不明	1.9

N=52, (%)

個々の利用者へのレク活動支援の実態は、表18の日常のレク活動の実施形態からもわかるように、利用者を一斉に集め、実施している施設が全体の76.9%もあり、表10のレク活動を実践している職員数と合わせて考えると、レク活動が利用者個々の実態に即したものとして展開されているかどうか疑問が残る。一方では表19にあるように日常のレク・プログラムは、利用者の声を反映させているが44.2%を示し、支援者主導型の活動が伺える。

(2) レク活動実践上の阻害要因

レク活動を実施している現状を踏まえて、レク活動を実践するうえでの問題点について自由回答させた。

表20 レク活動を実践するうえでの問題点 (自由回答の結果) (%)

心身機能, ADL に関する問題点	34.1
利用者の生活意欲に関する問題点	6.1
職員の利用者理解に関する問題点	8.5
利用者のレクに関する環境上問題点	48.8
家族に関する問題点	0.0
その他	2.5

N=82

表21 レク活動を実践するうえでの阻害要因 N=52, (%)

阻害要因/度合 (%)	かなり関係している	関係している	ふつう	あまり関係していない	関係していない
身体的側面よりみる阻害要因 (肢体不自由, 不随意運動など)	34.6	44.2	9.6	11.5	0.0
精神的側面よりみる阻害要因 (やる気がみられない, 興味を示さないなど)	36.5	48.1	9.6	5.8	0.0
知的側面よりみる阻害要因 (知能低下, 認知障害など)	19.2	44.2	21.2	15.4	0.0
経済的側面よりみる阻害要因 (施設のレク関係予算など)	0.0	7.7	21.2	42.3	28.8
社会的側面よりみる阻害要因 (スタッフの人間関係, 職員のレク・プログラムに取り組む姿勢など)	9.6	34.6	30.8	21.2	3.8
生活歴的側面よりみる阻害要因 (利用者, 園生のレクリエーション経験など)	3.8	21.2	34.6	30.8	9.6
施設の側面よりみる阻害要因 (場所の確保, 用具の不足など)	5.8	23.1	15.4	34.6	21.2
情動的側面よりみる阻害要因 (レクリエーション活動に関する情報不足など)	11.5	32.7	38.5	11.5	5.8
指導的側面よりみる阻害要因 (指導技術, 方法など)	19.2	50.0	17.3	9.6	3.8

レク活動を実践するうえでの問題点（表20）としてあげられるものは、限られた人数で処遇を行っているという職員数や職員のレク活動への無関心、知識不足など利用者のレク活動に関する環境上の問題が48.8%、疾病や高齢による心身機能、ADLに関する問題点が34.1%と高い割合を示している。

レク活動を実践するうえでの阻害要因（表21）の内、「かなり関係している」、「関係している」の回答している割合をみると、身体的側面よりみる阻害要因が78.8%、精神的側面よりみる阻害要因が84.6%、知的側面よりみる阻害要因が63.4%、指導的側面よりみる阻害要因が69.2%と高い割合を占めており、レク活動を実践するうえでの問題点の高い割合を示したものと一致している。他の阻害要因の割合は、社会的側面よりみる阻害要因が44.2%、情動的側面よりみる阻害要因が44.2%と続いており、施設の側面よりみる阻害要因が28.9%、利用者の生活歴的側面よりみる阻害要因が25.0%、経済的側面よりみる阻害要因が7.7%と続いている。

表22 レク活動を行う場所は確保していますか (%)

はい	92.3
いいえ	7.7

N=52

表23 レク活動の用具備品は揃っていますか (%)

かなり充実している	7.7
まあ充実している	13.5
ふつう	44.2
やや不足している	32.7
かなり不足している	1.9

N=52

表24 レク活動を行う場所はどういったところですか。 (複数回答) (%)

ホール	31.0
食堂	29.6
機能回復訓練室	16.9
中庭	7.1
ダイルーム	5.6
廊下	2.8
集会室	2.8
会議室	1.4
屋外	1.4
レクリエーション・ルーム	1.4
その他	0.0

N=71

なお、阻害要因の施設の側面に関連して、レク活動を行う場所の確保（表22）は、実に92.3%という高い割合で確保してあるが、レク活動のための備品の整備状況については「充実している」が21.2%となっており、場所よりもレク活動のための備品による阻害要因が高いことが推測される。

また、レク活動を行う具体的な場所（表24）については、「ホール」が31.0%、「食堂」29.6%、「機能回復訓練室」が16.9%となっており、施設内において比較的広い空間がレク活動の実践の場となっていることが分かる。

表25 レク活動を実践して良かった点
(自由回答) (%)

心身機能, ADL に関する効果	23.7
利用者の生活意欲に関する効果	41.5
職員の利用者理解に関する効果	13.3
利用者のレクに関する環境上の効果	15.7
家族に関する効果	1.2
その他の効果	4.8

N=84

最後に、レク活動を実践して良かった点についてまとめると、「利用者の生活意欲に関する事項」が41.5%、「機能回復・ADLに関する事項」が23.7%、「利用者のレクに関する環境上の事項」が15.7%、「職員の入処者理解に関する事項」13.3%、「家族に関する事項」が1.2%となっている。これらの結果は、福祉レクへのセラピューティック・レクリエーションの導入の成果や利用者の生活意欲の向上という島津等の見解を裏付けている。

IV. 最後に

今回の研究は、入所型施設における処遇改善及び向上のために、日常の業務の中心となる「介護」に関して、個々の生活文化を保障するための方法としてレクリエーション活動はどのように捕らえられているのかに焦点を当て、特別養護老人ホームにおける実態を調査し、分析した。

分析に際して、基本的な内容をⅠ. レク支援者の現状、Ⅱ. レク活動の位置付け、Ⅲ. レク活動の実態、Ⅳ. レク活動の阻害要因に分類した。

それぞれについてみると、Ⅰ. レク支援者の現状として、レク活動に主に携わっている職種は、生活指導員と寮母で、約半数が公認の資格を有している。施設におけるレク活動の必要性を感じつつ、各施設においてレク活動の実践に関わることのできる人数は限られており、施設外への研修に時々参加はしているものの、施設内においての研修は必要な場合のみの実施が大半であった。Ⅱ. レク活動の位置付けについて、行事、クラブ活動、余暇活動、リハビリ的活動といった多様な要素を含んで実践されているものの、まだ、十分な位置づけがなされていない。また、やや評価の高い行事としてのレク活動についても、家族、実習生やボランティアへのレク活動への参加呼び掛けについては、あまり働きかけられていない。Ⅲ. レク活動の実態としては、一斉に活動できる音楽的活動、遊戯およびゲームが実践されており、利用者からの希望も多い。しかし、スポーツに関しては、利用者からの希望が多いにもかかわらず、あまり実践されていない。また、レク活動支援者のうち半数近くが、レク・プログラムに利用者の声を反映させているにすぎない。Ⅳ. レク活動の阻害要因については、利用者の高齢化や疾病に伴う身体面、精神面、知的側面、レク活動に関する知識不足など指導的側面の割合が高い。その他、施設において処遇に携わっている職員数など社会的側面や各種レク活動に関する研修会の情報など情動的側面に関することが続いている。レク活

動に関する予算など経済面についてはほとんど問題でないと認識している。また、レク活動に関する施設・設備については、阻害要因としての認識は低く、実態としてレク活動実践の場所の確保よりもレク関係備品の整備不足が指摘されている。

施設におけるレク活動の実態はさまざまであるが、レク活動支援者自身その必要性を強く感じており、利用者の生活意欲の向上や心身機能・ADLの向上に効果があると認識している。

注

- 注1) 住谷 馨 [同志社大学 社会福祉学会編 第5号, 1991. 12, p.169]
- 注2) 島津 淳 [日本福祉大学 社会福祉学会編, 福祉研究76号, 1995. 3, p.33]
- 注3) この考え方の根本は憲法25条の条文に起因している。
- 注4) 石川 淳志 [現代社会福祉事典, 全国社会福祉協議会編, 1993, p.382]
- 注5) 小池 和幸 [福祉レクリエーションの援助, 日本レクリエーション協会, 1994, p.67]
- 注6) 日本レクリエーション協会 公認指導者資格認定規定 別表1による資格である。
- 注7) 日本レクリエーション協会編 [レクリエーション指導者 指導の手引き, 1988.7, p.35]
- 注8) 誕生会, 歳時は, レク・プログラムのいずれかの分類に含まれるものであるが, 自由回答であるために分類できない回答を特別に設けて集計している。

引用・参考文献

- 1) 厚生省編 [高齢者ケアプラン策定指針, 1995.8, p.147]
- 2) 日本レクリエーション協会編 [福祉レクリエーションの援助, 1995.8, p.11]
- 3) 日本船舶振興会編 [第5回 高齢者ケア国際シンポジウム(鹿児島), 1994.10, p.26]

資 料

社会福祉施設におけるレクリエーション活動の実態に関する調査

趣 旨

皆様方におかれましては、社会福祉施設において利用者の方々と共にノーマライゼーションの理念のもと、平素より御尽力をされていることと思います。

今回、利用者の方々の日常生活の活性化の必要性をふまえ、皆様方の施設におけるレクリエーション活動の実態について御意見を賜りたく存じております。

つきましては、この実態をもとに今後の介護福祉士教育の在り方について検討させていただき、鹿児島県の社会福祉の処遇向上に努めていきたいと思っております。

趣旨の御理解と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

平成7年8月

社会福祉におけるレクリエーション活動の在り方に関する調査研究会

専門委員 黒木邦弘	(鹿児島医療福祉専門学校)
山本清洋	(鹿児島大学)
高橋信行	(鹿児島経済大学)
山本良江	(加世田医療福祉専門学校 講師)
	(鹿児島医療福祉専門学校 講師)

調査の進めかたと答え方

この調査票は、Ⅰ. 回答者に関する基本的事項 Ⅱ. 施設でのレクリエーションの位置付けに関する事項 Ⅲ. レクリエーション活動に関する事項によって構成されています。

まず、Ⅰに回答者自身に関して記入していただきますが、Ⅱの施設でのレクリエーションに位置付けに関する回答者欄とⅢのレクリエーション活動に関する回答者欄があります。Ⅱ、Ⅲの回答者が異なる場合に、それぞれが指示された回答欄に記入して下さい。

また、回答者が同じ人の場合は、2つの回答欄に一人で記入して下さい。答え方としては、(1)御自身の考えに最も近いものを選んで、その番号を右はしの□に記入していただきます。(2)また、「書いてください」と指示があるときやその他の場合は、自分のありのままの考えを書いていただきたいと思っております。(3)複数回答が考えられる場合は、指示された回答数をお答え下さい。では、まず回答者自身に関する質問から

I. 基本的事項

1. 回答者は以下のどこにお勤めですか。 (Ⅱの施設でのレクの位置付けに関する解答者欄) (Ⅱのレク活動に関する解答者欄)

- 1) 特別養護老人ホーム
- 2) 老人保健施設
- 3) 身体障害者療護施設
- 4) 肢体不自由児施設

1

2. 職名を書いてください。

2

2

3. あなたの勤続年数は以下のどれに当てはまりますか。

- 1) 10年以上
- 2) 5～10年未満
- 3) 5年未満

3

3

4. 性別

- 1) 男
- 2) 女

4

4

Ⅱ. 〈施設でのレクリエーションの位置付け〉

あなたの施設で行っているレクリエーションについておたずねします。

(1)-① 行事としてのレクリエーション活動を行っていますか。

- 1) 行っている
- 2) 行っていない

5 (1)-①

(1)-② ①で1) 行っていると解答された方にお尋ねします。その活動状況はいかがですか。

- 1 非常に充実している
- 2 まあ充実している
- 3 普通である
- 4 あまり充実していない
- 5 充実していない

5 (1)-②

(2)-① クラブ活動としてのレクリエーション活動を行っていますか。

- 1) 行っている
- 2) 行っていない

6 (2)-①

(2)-② ①で1) 行っていると解答された方にお尋ねします。その活動状況はいかがですか。

- 1 非常に充実している
- 2 まあ充実している
- 3 普通である
- 4 あまり充実していない
- 5 充実していない

6 (2)-②

(3)-① 余暇活動としてのレクリエーション活動を行っていますか。

1) 行っている 2) 行っていない

7 (3)-①

(3)-② ①で1) 行っていると解答された方にお尋ねします。その活動状況はいかがですか。

1非常に充実している 2まあ充実している 3普通である 4あまり充実していない 5充実していない

7 (3)-②

(4)-① リハビリテーションとしてのレクリエーション活動を行っていますか。

1) 行っている 2) 行っていない

8 (4)-①

(4)-② ①で1) 行っていると解答された方にお尋ねします。その活動状況はいかがですか。

1非常に充実している 2まあ充実している 3普通である 4あまり充実していない 5充実していない

8 (4)-②

9. レクリエーション活動は主に下のどの職種の方が企画・実施をしておられますか。(複数解答可2つまで)

1) 介護福祉士 4) 看護婦
2) 寮母(寮父) 5) 作業療法士
3) 生活指導員 6) その他()

9 1

2

10. 9. の方々のレクリエーションに関する資格についておたずねします。

(1) 資格を

1) もっている(現在受講中の方も含む)
2) もっていない

10 1) 1

2

(2) 資格をもっている方におたずねします。その資格名は以下のどれですか。一つ選んでください。

1) 福祉レクリエーション・ワーカー
2) レクリエーション・コーディネーター
3) レクリエーション・インストラクター
4) その他 具体的な名称 ()

10 2) 1

2

11. 自分たちの施設におけるレクリエーションに関する勉強会の実施頻度は以下のどれに当てはまりますか。

1) 毎日
2) 週1~2回
3) 月1~2回
4) 特に定めていないが、必要に応じて随時
5) ほとんどしていない

11

12. 福祉分野でのレクリエーションの必要性について、どのようにお考えですか。

- 1) かなり重要視している
 - 2) まあ重要視している
 - 3) ふつうである
 - 4) あまり重要視していない
 - 5) まったく重要視していない

12

Ⅲ. <レクリエーション活動について>

レクリエーション活動（日常のレクリエーション，行事としてのレクリエーションを含む）実践を妨げている原因のそれぞれについて、近いものを選んで下さい。

かなり関係している 関係している ふつう あまり関係していない 関係していない

	1	2	3	4	5		
1) 身体的側面よりみる阻害要因 （肢体不自由，不随意運動など）	1	2	3	4	5	13	
2) 精神的側面よりみる阻害要因 （やる気がみられない，興味をしめさないなど）	1	2	3	4	5	14	
3) 知的側面よりみる阻害要因 （知能低下，認知障害など）	1	2	3	4	5	15	
4) 経済的側面よりみる阻害要因 （施設のレク関係予算など）	1	2	3	4	5	16	
5) 社会的側面よりみる阻害要因 （スタッフの人間関係，職員のレク・プログラムに取り組む姿勢など）	1	2	3	4	5	17	
6) 生活歴的側面よりみる阻害要因 （利用者，園生のレクリエーション経験など）	1	2	3	4	5	18	
7) 施設的側面よりみる阻害要因 （場所の確保，用具の不足など）	1	2	3	4	5	19	
8) 情報の側面よりみる阻害要因 （レクリエーション活動に関する情報不足など）	1	2	3	4	5	20	
9) 指導的側面よりみる阻害要因 （指導技術，方法など）	1	2	3	4	5	21	

22. 日常のレクリエーション活動を行う場所は，確保しておられますか。

- 1) はい
 - 2) いいえ

22

22. 1) で“はい”と答えた方，それはどういった場所ですか。具体的に書いてください。

()

23. 日常のレクリエーション活動を行うための備品は揃っていますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1) かなり充実している | 4) やや不足している |
| 2) まあ充実している | 5) かなり不足している |
| 3) ふつう | |

23

24. レクリエーションに関する施設外の研修会には参加していますか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1) 積極的に参加している | 4) ほとんど参加していない |
| 2) 時々参加している | 5) まったく参加していない |
| 3) ふつう | |

24

25. 日常のレクリエーションを実践する職員は、平均何名ですか。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1) 当日勤務している職員全員 | 4) 当日のレクリエーション担当者のみ |
| 2) 当日のレクリエーション担当者を含んだ4～5名 | 5) その他 |
| 3) 当日のレクリエーション担当者を含んだ1～3名 | () |

25

26. 日常のレクリエーション活動の形態について伺います。

- | |
|---------------------------|
| 1) 利用者(園生)一斉に行っている |
| 2) いくつかの小グループに分けて一斉に行っている |
| 3) 利用者(園生)を時間に分けて行っている |
| 4) 小グループ毎, 自由に選択して行っている |
| 5) その他 () |

26

27. 日常のレクリエーション活動及び行事としてのレクリエーション活動では、家族も参加できるように配慮していますか。

- | |
|----------------|
| 1) 積極的に呼び掛けている |
| 2) 時々呼び掛けている |
| 3) ふつうである |
| 4) あまり呼び掛けていない |
| 5) 呼び掛けていない |

27

28. 日常のレクリエーション活動及び行事としてのレクリエーション活動では、ボランティアや実習生も参加できるように配慮していますか。

- | |
|----------------|
| 1) 積極的に呼び掛けている |
| 2) 時々呼び掛けている |
| 3) ふつうである |
| 4) あまり呼び掛けていない |
| 5) 呼び掛けていない |

28

29. 日常のレクリエーション活動及び行事としてのレクリエーション活動では、家族にも呼び掛けていますか。

- | |
|----------------|
| 1) 積極的に呼び掛けている |
| 2) 時々呼び掛けている |
| 3) ふつうである |
| 4) あまり呼び掛けていない |

29

30. 他の施設に出掛けて行ってレクリエーションに関して交流することがありますか。

- | |
|--------------|
| 1) 頻繁にしている |
| 2) 時々している |
| 3) ふつうである |
| 4) あまりしていない |
| 5) まったくしていない |

30

31. 年間行事としてのレクリエーション活動派どのような内容をされていますか。
具体的に書いて下さい。

1月	7月
2月	8月
3月	9月
4月	10月
5月	11月
6月	12月

32. 日常のレク・プログラムでは主に次にあげるもののうちどのような分野をおこなっていますか。
(3つお選びください。)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 遊戯およびゲーム | 6 音楽的活動 |
| 2 スポーツ | 7 美術工芸・手芸工作 |
| 3 野外活動および自然探究 | 8 自己啓発活動 |
| 4 舞踊(ダンス) | 9 社交的活動 |
| 5 演劇的活動 | 10 その他 () |

32

↓

33. どのようなレクリエーション活動の希望が多いですか。3つ書いてください。
(実際おこなっているものと異なっても構いません。)

- 1 _____
- 2 _____
- 3 _____

34. レクリエーション活動を実践するうえでの問題点について書いて下さい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

35. レクリエーション活動を実践するうえでよかった点について書いて下さい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

36. 日常のレクリエーション・プログラムに利用者・園生の声をどれくらい反映させていますか。

1	2	3	4	5
かなり反映させている	反映させている	ふつう	あまり反映させていない	反映させていない

29

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。